

研究テーマ：現子育て世代の生活様式・ニーズも包含し身近な地域で応援する尾道版子育て方式の提案	
研究代表者：保健福祉学部理学療法学科 教授 島谷康司	連絡先：shimatani@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：助産学専攻科 准教授 藤井宏子，准教授 宮下ルリ子， 作業療法学科 助教 山西葉子	
<p>【研究概要】</p> <p>尾道市はひろしま版ネウボラのモデル事業として「身近な地域で子育てを応援する」ために、尾道市子育て世代包括支援センターを組織し実践している(2017)。本研究は、①妊娠後期の呼吸苦しさを和らげるための姿勢の検証，②産後母体ケアのための姿勢の検証，③SNS を利用した養育者の“その時”を助ける子育てサービスの提案，④ご家族の胎児愛着をそだてる子育て支援サービスの提案を2年計画の2年目として行った。</p>	

【研究内容・成果】

(1) GTMA の結果，妊婦は自宅内で腹部を圧迫する姿勢や立ち座りの際に，呼吸困難感を自覚しやすい。また，安静呼吸代謝測定の結果，左側臥位は休息姿勢として勧められる。さらに，ライフレコーダーによる日常生活活動量測定の結果，腹部を圧迫する姿勢や立ち座りでなく，掃除で最も心拍数が上昇し，GTMA の結果との乖離を認めたことから，妊婦は活動計を用いて自身の活動コントロールができる可能性を示唆した(図1)。

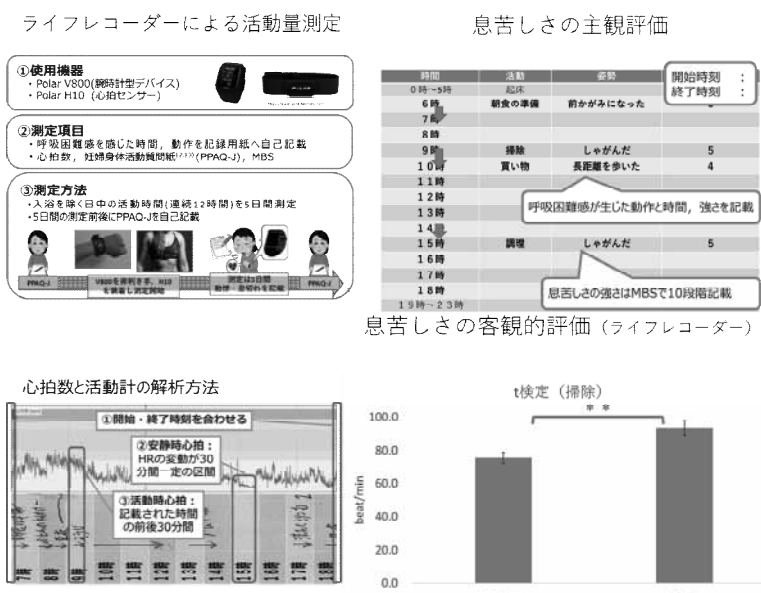


図1 日常生活における妊婦の呼吸苦に対する主観・客観的評価の調査

(2) 予定していた骨盤底筋体操の効果検証実験は延期となったが，11 姿勢から洗濯物を干す，掃除機かけなどの姿勢における骨盤底筋トレーニングが従来のトレーニング方法と主観的・客観的な違いは，個人差が大きいことを明らかにした(図2)。

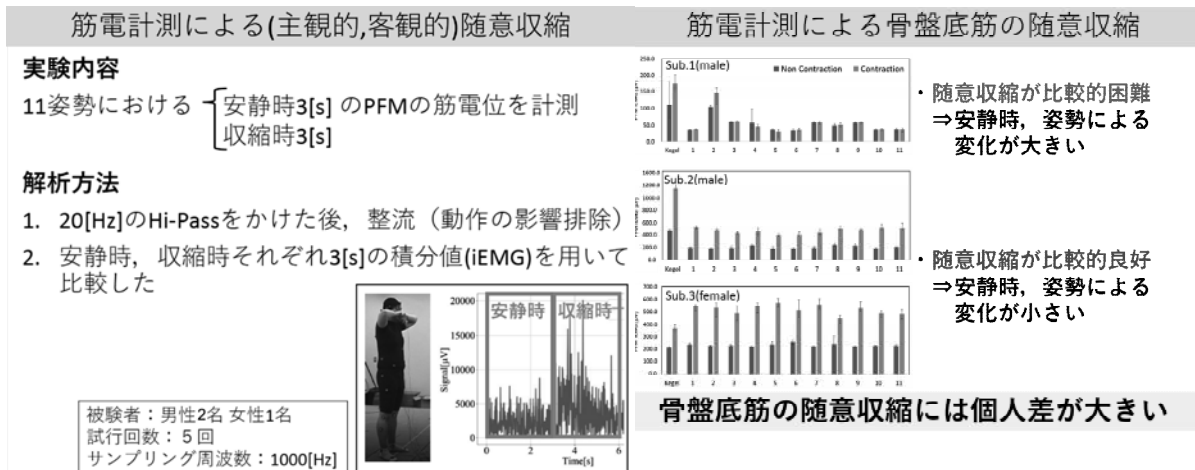


図2 筋電計測による骨盤底筋の主観と客観の乖離

【研究区分：地域課題解決研究】

(3) 本年度予定していた、乳児期まで（健康推進課）と幼児期（子育て支援課）で相談・支援法を確立、④子どもの家庭内の行動変容と養育者の満足度を検証は、新設された向東認定子ども園のインターネットセキュリティ対策の観点から実施不可能なことが明らかとなり、個別実証実験のための十分な検証が行えなかった。

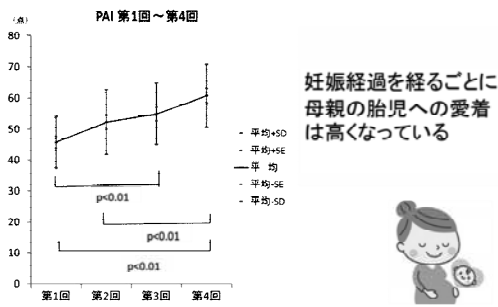


図3 オンライン保育・子育て相談システムとその様子

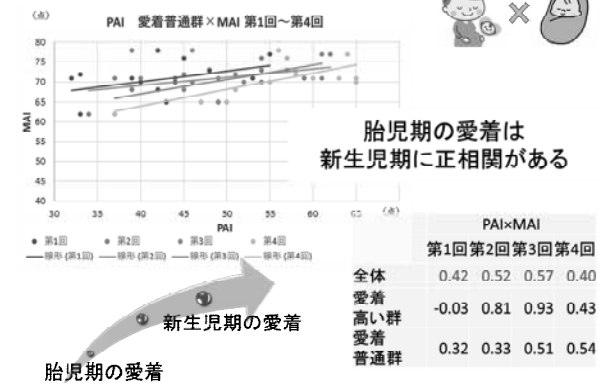
※2020年度から新たに尾道市と県立広島大学が共同研究契約を締結し、「オンライン子育て支援システム「キッズ Web☆尾道」に関する実践検証」を11施設で開始することとなった（図3）。行政によるオンライン保育・子育て相談は、全国初の試みである。

(4) 超音波画像装置を用いた胎動認識と愛着実験では、胎動スコアと胎児愛着尺度得点の間に中程度の相関を認めたことから、胎動と胎児への愛着には関連性があることが示され、先行研究を支持する結果となった。初産婦が胎動に気づく回数を増やすことによって、胎児への愛着が高まる可能性が示唆された（図4）。

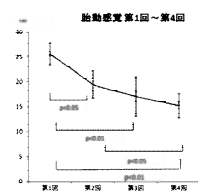
胎児愛着尺度 (PAI) の推移



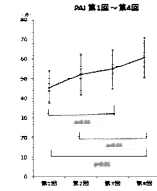
胎児愛着尺度×新生児愛着尺度



妊娠経過に伴い胎動を強く感じられる結果

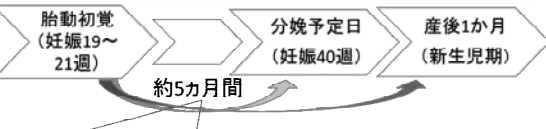


妊娠経過に伴い胎児への愛着を強く感じられる結果



→胎動初覚期以外に相関が認められなかった

胎動初覚時期(19～21週)に胎動と胎児への愛着が関連していることが示唆されたが、妊娠期間の全期間を通じて愛着は関連しているわけではない



胎動を繰り返し知覚することで、胎児が元気であると考え、胎児への愛着を高める。(藤,2012)

胎動を教示し、繰り返し胎動を知覚することで胎児への愛着が高まる可能性

図4 超音波画像装置を用いた胎児愛着形成の経過の検証

以上、2018～2019年度の2年間は各実験の基礎的検証を行った。その発展として、2020年度は尾道市と県立広島大学が共同研究契約を締結し、「母子保健サービス」と「子育て支援サービス」の実践検証を開始した。